（別表第1の3）

評 価 結 果 概 要 表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890200029
法人名	医療法人　仁明会
事業所名	グループホーム　はとり
所在地	愛媛県今治市南宝来町3丁目4番地1
自己評価作成日	平成24年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成　24　年　7　月　　19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

食事は、利用者ごとの病状、嚥下状態に合わせながら、きめ細かに対応を行い、管理栄養士の作成するバランスのとれたメニューでおいしい食事を心がけている、利用者の希望の食事も月に1週間取り入れて献立を作成している。排泄は要介護5の状態になっても、できるだけトイレで排泄できるように支援している特に排便は、トイレで行えるように気を配り、介護度が進んでもホームで生活ができるように配慮している。職員の働きやすさにも重点を置き、家庭生活と仕事が両立できる職場になるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体の医療機関が隣接しているため、利用者の安心感は大きい。事業所は2階と3階にあり、1階のデイサービスセンターでボランティアによるフラダンスや音楽を一緒に楽しみ、利用者と交流している。入浴は一人ひとり湯を入れ替え入浴剤を工夫するなど、楽しみとなるよう支援している。7月から9月にかけては毎日入浴できる。管理栄養士は利用者の好みを採り入れながらバランスよく献立を立てている。調理は主に専任の職員が行い、職員はゆとりをもって利用者本位のケアを実践している。利用者と職員が一緒にテーブルを囲み、美味しく調理された食事を和やかな雰囲気でとっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別表第1の2）

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
（評価項目の構成）

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】
- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居（ユニット）ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

（注） 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について
- ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。（他に「家族」に限定する項目がある）
- ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）。
- ●職　員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をＰＲ!!!

ーサービス向上への３ステップー

事業所名	グループホーム　はとり
（ユニット名）	3階
記入者（管理者）	
氏　名	原　文香
評価完了日	平成24年　7月　1　日

（別表第１）

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」＋「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	（自己評価） ご利用者が、自分の家庭で暮らすように、住み慣れた地域で、楽しく、健やかに、自分らしく暮らせるように願って、事業所の理念としている。玄関、各階の中央の柱に運営理念を掲示して、理念を共有している。 （外部評価） 設立時に代表者と管理者で話し合い、分かりやすい理念を作成している。職員は、毎月のミーティングで日々のケアを振り返り、理念の実践に努めている。職員全員で話し合い、見直しについても検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	（自己評価） グループホームの利用者も、地域のお祭りなどに参加し、地域の方も大人御輿、子ども御輿ともホームを訪れてくれている。毎日の散歩でご近所の方と利用者・職員が親しくなり、挨拶を交わしたりお花をくださったりする。 （外部評価） 事業所の夏祭りや文化祭のチラシを近隣住民に配布している。近隣を散歩してあいさつを交わすなど日常的に交流し、地域の祭りにも参加している。事業所1階のデイサービスセンターで利用者と一緒にフラダンスや音楽を楽しんだり、幼稚園児との交流もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	（自己評価） ご近所の方が夏祭りや、文化祭の時、また、運営推進会議時にホームを訪れた時に、認知症についての質問にお答えしたり、お話ししたりしている。介護実習生やボランティアを受け入れ、介護人材育成にわずかながら協力している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	（自己評価） 運営推進会議を２ヶ月に１階開催して、ホームのご利用者や職員のことなどを報告し、困りごとの相談、利用者の地域参加などのことを話し合っている。議題がマンネリ化しているのが悩みの種である。２３年度からは、介護実習生も運営推進会議に参加している。	
			（外部評価） 自治会長や市担当者、利用者や家族が参加して２か月毎に開催している。会議で出された意見や要望を運営に活かしている。高齢者ボランティアグループの参加も検討している。	参加者が固定化傾向にあるため、多方面からの参加を得る取組みに期待したい。有意義な会議となるよう議題に合わせた参加メンバーにするなど、さらなる工夫が望ましい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	（自己評価） わからないことや、疑問に思うこと、又、困難事例などを市役所高齢介護課に相談しながら運営を行っている。	
			（外部評価） 日頃から市担当者と連絡を密に取り、相談したり情報をもらったりして、話しやすい関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	（自己評価） 職員ミーティング時に、少しづつ、禁止対象行為を話し、何が身体拘束に当たるかを徐々に浸透させている。又、利用者ごとにケアを工夫し、身体拘束は行っていない。虐待・身体拘束防止委員会を立ち上げているが、年に１回くらいしか活動できていないので、今年度は、少しづつ活動を増やしていく予定である。	
			（外部評価） 職員は身体拘束について外部研修などで学習し、ミーティングで話し合って、全員が正しく理解している。玄関の施錠を含め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	（自己評価） 虐待に関する研修を、職員が毎年度受けている。虐待に関しても虐待防止委員会を立ち上げているが、活動回数が少なく、これからの課題である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	（自己評価） 権利擁護維持業や日常生活自立支援事業の研修に参加して学ぶ機会を持っている。実際に成年後見制度を利用しているりようしゃさんも入所されており、職員と実際に学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	（自己評価） ご本人やご家族とよく話し合う機会を持ち、納得されてから契約を結んでいる。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	（自己評価） 運営推進会議やご家族の訪問時に、ご家族の意見を聞き、運営や計画に反映している。各階ホームの入り口に御意見箱を設置して、ご家族や訪問者の意見を聞いている。 （外部評価） 家族から意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに配慮し、出された意見などについては記録しミーティングで話し合って運営に反映させている。重要事項説明書に苦情相談の連絡先を明記し、意見箱も置いている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	（自己評価） 毎月１回のミーティング時と各種会の時に、職員の意見を聞き運営に反映している。 （外部評価） 日頃から、管理者は職員に声をかけて話しやすい雰囲気づくりに努めている。施設長と母体の医療機関の副院長とが毎月のミーティングに出席して、職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。年１回、施設長と管理者が職員の個人面談も行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	（自己評価） 代表者は、各職員が向上心を持ち、安心して働くことができるよう、労働条件、職場環境、有休休暇取得、育児休暇、介護休暇など、職場環境・条件の整備を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	（自己評価） 職員の研修計画を作成して、個々の職員の能力水準に合わせて必要な研修を受けることができるよう、援助を行っている。特に資格取得研修に力を入れている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	（自己評価） 地域密着型サービス協会に所属して、各種研修や相互研修事業に参加し、同業者と職員が交流する機会を作り、サービス協会の活動を通じて、地域全体のサービスの質を向上させるべく、日々努力をしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	（自己評価） 入居前や、入居直後にご本人、ご家族と話し合い、アセスメントを行って、ご本人やご家族の状況を理解して希望をお聞きし、計画に反映する。入所後も頻回に本人家族と話し合い、安心を確保している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	（自己評価） 入居前や入居後に、ご家族と話し合い、ご本人やご家族の状況を理解して、ご家族の不安、要望に耳を傾け、不安が解決し要望がかなえられるよう計画し、ご家族と話し合う機会を多く持って、関係作りに勤めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	（自己評価） サービス利用前に、本人家族を面接を行い、現状で本人にとって最良の支援かどうかを検討し、話し合う。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	（自己評価） ご本人の、できることとできないことを見極め、できることは手伝っていただき、できないことは、できるように援助を行っている。また、何かをしていただいたら「ありがとう」の言葉がけをわすれずに行い、共に生活する関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	（自己評価） 入居者ご家族の無理のない範囲で、協力を願いし、本人と家族の絆を断ち切ることのないように援助を行っている、	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	（自己評価） ご家族、友人、ご近所の面会を歓迎して、来所者をおもてなしし、利用者との関係が続くように援助をしている （外部評価） 利用者の知人や友人、デイサービス利用者の訪問時には、ゆっくり話せるよう配慮している。これまで利用していた馴染みのスーパーや美容院へ行けるよう関係継続に努めている。手紙による交流も支援している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	（自己評価） 利用者一人一人に日々の状況を把握して、職員がさりげなく利用者に関わり必要な支援を行うことで、利用者同士が、仲の良い隣近所のように自然に支え合えるように務めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	（自己評価） ホームを退所したあとも、必要に応じて相談援助を行っている。	
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	（自己評価） ご本人や、ご家族と頻回にコミュニケーションをとり本人の意向を把握して本人の思いに寄り添えるように努力している。 （外部評価） 家族の協力を得ながら一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。得られた情報は申し送りノートに記録し、職員が共有してケアにあたっている。利用者が不穏状態の時も、寄り添って表情などから思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	（自己評価） 入居時に、ご本人、ご家族、担当の介護支援専門員さんから情報を収集し、入所後も浴コミュニケーションを取って、生活歴その他を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	（自己評価） アセスメントシートを使用して、一人一人のげんじょうの把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	（自己評価） 計画作成時にケアカンファレンスを行い、ご本人やご家族の意見、希望をお聞きして介護計画に反映している。 （外部評価） 利用者や家族、ケア関係者が日々の生活の中で気付いたこと、思ったことなど互いに出し合い、現状に即した介護計画を作成している。３か月毎に見直しを行い、家族に説明し同意をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	（自己評価） 個別記録を作り、日々の様子や計画の実践経過、結果、評価を行い、計画の見直し、作成に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	（自己評価） ご本人のニーズに合わせて、柔軟な対応を心がけている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	（自己評価） ご本人を支えている、ご家族、ご近所、隣組、友人、老人会などの地域資源を把握して、協力していただける部分は、協力をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	（自己評価） ご本人、ご家族にかかりつけ医を確認して、希望の医療機関を受診いただいている。また、協力医療機関とも密に連絡を取り、利用者が適切な医療を受け健康が保てるように支援している。他科受診で、ご家族の健康不良により家族支援が受けられない場合には、ホームの職員が受診介助を行うこともある。 （外部評価） 利用者や家族の希望を大切にし、眼科や整形外科などかかりつけ医の受診を支援している。家族同行の通院を基本にしできないときは職員が同行している。受診結果を把握し、連携して適切に健康管理が行えるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	（自己評価） 毎日の申し送り時に、ホームの看護師にご本人の状態を報告、相談を行い、適切な受診や看護が受けられるように支援している。又、かかりつけ医が協力医療機関の場合には、ほぼ毎日主治医に、入居者の状態の申し送りを行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	（自己評価） 利用者が入院した際には、安心して治療ができるように、病院関係者と情報交換を行い、入院中もご家族の相談を受けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	（自己評価） 入所時より、看取り介護の説明を行い、本人の状態に合わせて、重度や終末期についての相談を受けている。 （外部評価） 重度化や終末期に向けた方針について、入居時に説明し利用者や家族と話し合っている。法人代表の医師が中心となり支援している。詳細な看取り指針を作成しているが、看取りの経験はまだない。	看取りについての外部研修を受けているが、より一層理解を深める仕組みや関係者との協力体制を整え、利用者の安心で安楽な生活を支援していく取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	（自己評価） 急変時や、事故発生時に備えて、救急マニュアルを作成し、内部では職員ミーティングで急変時の研修を行い、毎年、職員数名ずつが、ＡＥＤ・心肺蘇生の研修に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	（自己評価） 防火訓練・避難訓練を年２回行い、緊急災害に備えて訓練を行っている。地震・水害マニュアルは未だ、ホーム独自の物となっていないため、引き続き修正予定である。 （外部評価） 緊急連絡網やマニュアルを作成して、消防署の協力のもと、年２回、防火避難訓練を行っている。鉄筋４階建ての２階と３階にある事業所は、消防署の近隣にあり安心感がある。	利用者の身体状況の変化や訓練の反省などを反映させたより実践的なマニュアルの作成が望まれる。地域の自主防災組織についても確認し、協力を得ながら、自主的な訓練が行われるよう期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	（自己評価） 一人一人のパーソナリティに合わせて、本人のプライドを傷つけないように、言葉かけや対応を行っている。 （外部評価） 一人ひとりの人格を尊重するよう心がけて、声かけや対応に配慮している。職員は誇りやプライバシーを損ねないよう留意し、ミーティングでも話し合い日々のケアで実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	（自己評価） 時間を掛けてゆっくりと、本人の希望や、意思を確認して、本人の気持ちに添って物事が運べるよう援助している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	（自己評価） できるだけ、本人の時間で行動していただくように支援している。様々な場面で本人の意思確認を行い、自分の生活をしていただけるよう努力している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	（自己評価） 洋服や、アクセサリー、ヘアスタイルなど本人がその人らしいおしゃれを楽しめるように、支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	（自己評価） 利用者の好みに気を配りながら、食事が楽しくできるよう支援している。調理ができる方はほとんどいないが、下ごしらえや食器の用意、テーブルのセッティングなど職員と共に行っている。 （外部評価） 管理栄養士がバランスのとれた献立を立て、利用者の好みも採り入れて美味しく調理している。利用者の状態に合わせて、刻み食や量の調整をしている。家庭的雰囲気の中で利用者と職員が会話を楽しみながら食事をしている。調理の下ごしらえや食器の片付けなど、利用者の持てる力を活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	（自己評価） 今年度より科、管理栄養士の作成するメニューに変更し栄養バランスの摂れた食事を提供している。月に1週間くらいは、利用者の希望のメニューが提供できるようにしており、また水分補給にも気を配って援助している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	（自己評価） 毎食後、本院のできる状態に合わせて、口腔ケア支援を行っている。又月に1度、歯科医の往診があり希望者は管理指導を受けて、口腔内の清潔が保持でき、トラブルのおこらないように支援している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	（自己評価） 毎日排泄チェックを行い、排泄週間を活かして、利用者全員がトイレで排泄ができるように支援している。 （外部評価） 一人ひとりの排泄パターンを把握し、状態に合わせて自立にむけた排泄支援をしている。夜間は紙おむつを使用している利用者も、日中はできる限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	（自己評価） 利用者ごとに排便チェックを行い、排便確認を行って、その人独自の排便パターンでスムーズな排便ができるよう、食事や飲み物、おやつなどで調整して援助をおこなっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	（自己評価） 夏になり、全員の方が毎日入浴を楽しむことができるように入浴を行っている。重介護を要する利用者が増加したため、重介護の必要な方は午前中も入浴介助を行い、比較的軽度の方は、自宅での入浴時間に近い、午後の時間に入浴を楽しんでいただいている。 （外部評価） 入浴は、重介護を要する利用者が増加したため、午前は車いすの方、午後はそれ以外の方と時間帯で分けて支援している。一人ひとり湯を入れ替え入浴剤を工夫するなど、楽しめるよう心がけている。７月から９月にかけては毎日入浴できる。入浴が苦手な利用者には声かけを工夫したり清拭にするなど配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	（自己評価） 決められた時間で、利用者を縛ることなく、自分の好きな時間に休息し入眠できるような支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	（自己評価） 看護師が常勤しており、服薬支援、服薬指導、症状の変化の把握を行っている。与薬変更他、内服方法や服薬に対して注意点がある場合には、看護師より介護職員に対して説明が行われている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	（自己評価） 利用者のできることを見極めて、それぞれに役割を持っていただき、買い物、お花のお世話、テーブル拭き、等を手伝っていただく。又、嗜好品や個人の楽しみ事は個人に合わせて行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	（自己評価） 毎日散歩を行っている、お出かけ希望の時には、車で外出したり、遠いところにはご家族の協力も得て外出支援を行っている。 （外部評価） 毎日、職員と一緒に近隣の公園や神社へ散歩に出かけ、住民とあいさつを交わしている。糸山公園や市民の森、産直市場など、全員で戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	（自己評価） 管理能力のある方は本人が管理している。金銭管理が難しいかたでも本人家族の強い希望があれば、小遣い程度のお金を所持していただき、買い物を楽しんでいただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	（自己評価） 希望時にご家族に電話をかけることができるように、支援している。携帯電話をお持ちの場合にはその援助も行っている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	（自己評価） 居室も共用スペースも、利用者さんが不快な思いをしないよう、居心地の良いように配慮している。 （外部評価） 共用空間は全体が清潔で適温に保たれている。居間にある台所はガラス張りになっており、利用者は調理する様子を見たり、音や匂いも楽しむことができる。季節感のある手作りの作品や花を飾って、居心地よく過ごせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	（自己評価） 居室以外に、一人になりたいときに利用できる畳の間を用意している。畳の間が嫌なときには、ご家族と相談の時に使用する相談室も利用できる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	（自己評価） 居室は利用者の好みに応じた飾り物、使い慣れた家具、人形などを持ち込み、本人が自宅と変わらない生活ができるように支援している。 （外部評価） 居室にはテレビやテーブル、ソファなど使い慣れた物を持ち込むことができ、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	（自己評価） 一人ひとりが安全に暮らせるように、わかりやすく使いやすいように、エレベーターのボタン等をユニバーサルデザインにしている。また、トイレの洗浄ボタンも大きな物を使用し、手洗いの水道は自動止にしている。	

（別表第1の3）

評 価 結 果 概 要 表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890200029
法人名	医療法人　仁明会
事業所名	グループホーム　はとり
所在地	愛媛県今治市南宝来町3丁目4番地1
自己評価作成日	平成24年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成　24　年　7　月　19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

食事は、利用者ごとの病状、嚥下状態に合わせながら、きめ細かに対応を行い、管理栄養士の作成するバランスのとれたメニューでおいしい食事を心がけている、利用者の希望の食事も月に1週間取り入れて献立を作成している。排泄は要介護5の状態になっても、できるだけトイレで排泄できるように支援している特に排便は、トイレで行えるように気を配り、介護度が進んでもホームで生活ができるように配慮している。職員の働きやすさにも重点を置き、家庭生活と仕事が両立できる職場になるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体の医療機関が隣接しているため、利用者の安心感は大きい。事業所は2階と3階にあり、1階のデイサービスセンターでボランティアによるフラダンスや音楽を一緒に楽しみ、利用者と交流している。入浴は一人ひとり湯を入れ替え入浴剤を工夫するなど、楽しみとなるよう支援している。7月から9月にかけては毎日入浴できる。管理栄養士は利用者の好みを採り入れながらバランスよく献立を立てている。調理は主に専任の職員が行い、職員はゆとりをもって利用者本位のケアを実践している。利用者と職員が一緒にテーブルを囲み、美味しく調理された食事を和やかな雰囲気でとっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別表第1の2）

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
（評価項目の構成）

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】
- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居（ユニット）ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

（注） 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について
- ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。（他に「家族」に限定する項目がある）
- ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）。
- ●職　員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をＰＲ!!!

ーサービス向上への３ステップー

事業所名	グループホーム　はとり
（ユニット名）	2階
記入者（管理者）	
氏　名	原　文香
評価完了日	平成24年　7月　1　日

（別表第１）

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」＋「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	（自己評価） ご利用者が、自分の家庭で暮らすように、住み慣れた地域で、楽しく、健やかに、自分らしく暮らせるように願って、事業所の理念としている。玄関、各階の中央の柱に運営理念を掲示して、理念を共有している。 （外部評価） 設立時に代表者と管理者で話し合い、分かりやすい理念を作成している。職員は、毎月のミーティングで日々のケアを振り返り、理念の実践に努めている。職員全員で話し合い、見直しについても検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	（自己評価） グループホームの利用者も、地域のお祭りなどに参加し、地域の方も大人御輿、子ども御輿ともホームを訪れてくれている。毎日の散歩でご近所の方と利用者・職員が親しくなり、挨拶を交わしたりお花をくださったりする。 （外部評価） 事業所の夏祭りや文化祭のチラシを近隣住民に配布している。近隣を散歩してあいさつを交わすなど日常的に交流し、地域の祭りにも参加している。事業所1階のデイサービスセンターで利用者と一緒にフラダンスや音楽を楽しんだり、幼稚園児との交流もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	（自己評価） ご近所の方が夏祭りや、文化祭の時、また、運営推進会議時にホームを訪れた時に、認知症についての質問にお答えしたり、お話ししたりしている。介護実習生やボランティアを受け入れ、介護人材育成にわずかながら協力している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	（自己評価） 運営推進会議を２ヶ月に１階開催して、ホームのご利用者や職員のことなどを報告し、困りごとの相談、利用者の地域参加などのことを話し合っている。議題がマンネリ化しているのが悩みの種である。２３年度からは、介護実習生も運営推進会議に参加している。	
			（外部評価） 自治会長や市担当者、利用者や家族が参加して２か月毎に開催している。会議で出された意見や要望を運営に活かしている。高齢者ボランティアグループの参加も検討している。	参加者が固定化傾向にあるため、多方面からの参加を得る取組みに期待したい。有意義な会議となるよう議題に合わせた参加メンバーにするなど、さらなる工夫が望ましい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	（自己評価） わからないことや、疑問に思うこと、又、困難事例などを市役所高齢介護課に相談しながら運営を行っている。	
			（外部評価） 日頃から市担当者と連絡を密に取り、相談したり情報をもらったりして、話しやすい関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	（自己評価） 職員ミーティング時に、少しづつ、禁止対象行為を話し、何が身体拘束に当たるかを徐々に浸透させている。又、利用者ごとにケアを工夫し、身体拘束は行っていない。虐待・身体拘束防止委員会を立ち上げているが、年に１回くらいしか活動できていないので、今年度は、少しづつ活動を増やしていく予定である。	
			（外部評価） 職員は身体拘束について外部研修などで学習し、ミーティングで話し合って、全員が正しく理解している。玄関の施錠を含め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	（自己評価） 虐待に関する研修を、職員が毎年度受けている。虐待に関しても虐待防止委員会を立ち上げているが、活動回数が少なく、これからの課題である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	（自己評価） 権利擁護維持業や日常生活自立支援事業の研修に参加して学ぶ機会を持っている。実際に成年後見制度を利用しているりようしゃさんも入所されており、職員と実際に学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	（自己評価） ご本人やご家族とよく話し合う機会を持ち、納得されてから契約を結んでいる。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	（自己評価） 運営推進会議やご家族の訪問時に、ご家族の意見を聞き、運営や計画に反映している。各階ホームの入り口に御意見箱を設置して、ご家族や訪問者の意見を聞いている。 （外部評価） 家族から意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに配慮し、出された意見などについては記録しミーティングで話し合って運営に反映させている。重要事項説明書に苦情相談の連絡先を明記し、意見箱も置いている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	（自己評価） 毎月１回のミーティング時と各種会の時に、職員の意見を聞き運営に反映している。 （外部評価） 日頃から、管理者は職員に声をかけて話しやすい雰囲気づくりに努めている。施設長と母体の医療機関の副院長とが毎月のミーティングに出席して、職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。年１回、施設長と管理者が職員の個人面談も行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	（自己評価） 代表者は、各職員が向上心を持ち、安心して働くことができるよう、労働条件、職場環境、有休休暇取得、育児休暇、介護休暇など、職場環境・条件の整備を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	（自己評価） 職員の研修計画を作成して、個々の職員の能力水準に合わせて必要な研修を受けることができるよう、援助を行っている。特に資格取得研修に力を入れている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	（自己評価） 地域密着型サービス協会に所属して、各種研修や相互研修事業に参加し、同業者と職員が交流する機会を作り、サービス協会の活動を通じて、地域全体のサービスの質を向上させるべく、日々努力をしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	（自己評価） 入居前や、入居直後にご本人、ご家族と話し合い、アセスメントを行って、ご本人やご家族の状況を理解して希望をお聞きし、計画に反映する。入所後も頻回に本人家族と話し合い、安心を確保している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	（自己評価） 入居前や入居後に、ご家族と話し合い、ご本人やご家族の状況を理解して、ご家族の不安、要望に耳を傾け、不安が解決し要望がかなえられるよう計画し、ご家族と話し合う機会を多く持って、関係作りに勤めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	（自己評価） サービス利用前に、本人家族を面接を行い、現状で本人にとって最良の支援かどうかを検討し、話し合う。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	（自己評価） ご本人の、できることとできないことを見極め、できることは手伝っていただき、できないことは、できるように援助を行っている。また、何かをしていただいたら「ありがとう」の言葉がけをわすれずに行い、共に生活する関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	（自己評価） 入居者ご家族の無理のない範囲で、協力を願いし、本人と家族の絆を断ち切ることのないように援助を行っている、	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	（自己評価） ご家族、友人、ご近所の面会を歓迎して、来所者をおもてなしし、利用者との関係が続くように援助をしている （外部評価） 利用者の知人や友人、デイサービス利用者の訪問時には、ゆっくり話せるよう配慮している。これまで利用していた馴染みのスーパーや美容院へ行けるよう関係継続に努めている。手紙による交流も支援している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	（自己評価） 利用者一人一人に日々の状況を把握して、職員がさりげなく利用者に関わり必要な支援を行うことで、利用者同士が、仲の良い隣近所のように自然に支え合えるように務めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	（自己評価） ホームを退所したあとも、必要に応じて相談援助を行っている。	
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	（自己評価） ご本人や、ご家族と頻回にコミュニケーションをとり本人の意向を把握して本人の思いに寄り添えるように努力している。 （外部評価） 家族の協力を得ながら一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。得られた情報は申し送りノートに記録し、職員が共有してケアにあたっている。利用者が不穏状態の時も、寄り添って表情などから思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	（自己評価） 入居時に、ご本人、ご家族、担当の介護支援専門員さんから情報を収集し、入所後も浴コミュニケーションを取って、生活歴その他を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	（自己評価） アセスメントシートを使用して、一人一人のげんじょうの把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	（自己評価） 計画作成時にケアカンファレンスを行い、ご本人やご家族の意見、希望をお聞きして介護計画に反映している。 （外部評価） 利用者や家族、ケア関係者が日々の生活の中で気付いたこと、思ったことなど互いに出し合い、現状に即した介護計画を作成している。３か月毎に見直しを行い、家族に説明し同意をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	（自己評価） 個別記録を作り、日々の様子や計画の実践経過、結果、評価を行い、計画の見直し、作成に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	（自己評価） ご本人のニーズに合わせて、柔軟な対応を心がけている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	（自己評価） ご本人を支えている、ご家族、ご近所、隣組、友人、老人会などの地域資源を把握して、協力していただける部分は、協力をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	（自己評価） ご本人、ご家族にかかりつけ医を確認して、希望の医療機関を受診いただいている。また、協力医療機関とも密に連絡を取り、利用者が適切な医療を受け健康が保てるように支援している。他科受診で、ご家族の健康不良により家族支援が受けられない場合には、ホームの職員が受診介助を行うこともある。 （外部評価） 利用者や家族の希望を大切にし、眼科や整形外科などかかりつけ医の受診を支援している。家族同行の通院を基本にしできないときは職員が同行している。受診結果を把握し、連携して適切に健康管理が行えるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	（自己評価） 毎日の申し送り時に、ホームの看護師にご本人の状態を報告、相談を行い、適切な受診や看護が受けられるように支援している。又、かかりつけ医が協力医療機関の場合には、ほぼ毎日主治医に、入居者の状態の申し送りを行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	（自己評価） 利用者が入院した際には、安心して治療ができるように、病院関係者と情報交換を行い、入院中もご家族の相談を受けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	（自己評価） 入所時より、看取り介護の説明を行い、本人の状態に合わせて、重度や終末期についての相談を受けている。 （外部評価） 重度化や終末期に向けた方針について、入居時に説明し利用者や家族と話し合っている。法人代表の医師が中心となり支援している。詳細な看取り指針を作成しているが、看取りの経験はまだない。	看取りについての外部研修を受けているが、より一層理解を深める仕組みや関係者との協力体制を整え、利用者の安心で安楽な生活を支援していく取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	（自己評価） 急変時や、事故発生時に備えて、救急マニュアルを作成し、内部では職員ミーティングで急変時の研修を行い、毎年、職員数名ずつが、ＡＥＤ・心肺蘇生の研修に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	（自己評価） 防火訓練・避難訓練を年２回行い、緊急災害に備えて訓練を行っている。地震・水害マニュアルは未だ、ホーム独自の物となっていないため、引き続き修正予定である。 （外部評価） 緊急連絡網やマニュアルを作成して、消防署の協力のもと、年２回、防火避難訓練を行っている。鉄筋４階建ての２階と３階にある事業所は、消防署の近隣にあり安心感がある。	利用者の身体状況の変化や訓練の反省などを反映させたより実践的なマニュアルの作成が望まれる。地域の自主防災組織についても確認し、協力を得ながら、自主的な訓練が行われるよう期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	（自己評価） 一人一人のパーソナリティに合わせて、本人のプライドを傷つけないように、言葉かけや対応を行っている。 （外部評価） 一人ひとりの人格を尊重するよう心がけて、声かけや対応に配慮している。職員は誇りやプライバシーを損ねないよう留意し、ミーティングでも話し合い日々のケアで実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	（自己評価） 時間を掛けてゆっくりと、本人の希望や、意思を確認して、本人の気持ちに添って物事が運べるよう援助している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	（自己評価） できるだけ、本人の時間で行動していただくように支援している。様々な場面で本人の意思確認を行い、自分の生活をしていただけるよう努力している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	（自己評価） 洋服や、アクセサリー、ヘアスタイルなど本人がその人らしいおしゃれを楽しめるように、支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	（自己評価） 利用者の好みに気を配りながら、食事が楽しくできるよう支援している。調理ができる方はほとんどいないが、下ごしらえや食器の用意、テーブルのセッティングなど職員と共に行っている。 （外部評価） 管理栄養士がバランスのとれた献立を立て、利用者の好みも採り入れて美味しく調理している。利用者の状態に合わせて、刻み食や量の調整をしている。家庭的雰囲気の中で利用者と職員が会話を楽しみながら食事をしている。調理の下ごしらえや食器の片付けなど、利用者の持てる力を活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	（自己評価） 今年度より科、管理栄養士の作成するメニューに変更し栄養バランスの摂れた食事を提供している。月に1週間くらいは、利用者の希望のメニューが提供できるようにしており、また水分補給にも気を配って援助している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	（自己評価） 毎食後、本院のできる状態に合わせて、口腔ケア支援を行っている。又月に1度、歯科医の往診があり希望者は管理指導を受けて、口腔内の清潔が保持でき、トラブルのおこらないように支援している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	（自己評価） 毎日排泄チェックを行い、排泄週間を活かして、利用者全員がトイレで排泄ができるように支援している。 （外部評価） 一人ひとりの排泄パターンを把握し、状態に合わせて自立にむけた排泄支援をしている。夜間は紙おむつを使用している利用者も、日中はできる限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	（自己評価） 利用者ごとに排便チェックを行い、排便確認を行って、その人独自の排便パターンでスムーズな排便ができるよう、食事や飲み物、おやつなどで調整して援助をおこなっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	（自己評価） 夏になり、全員の方が毎日入浴を楽しむことができるように入浴を行っている。重介護を要する利用者が増加したため、重介護の必要な方は午前中も入浴介助を行い、比較的軽度の方は、自宅での入浴時間に近い、午後の時間に入浴を楽しんでいただいている。 （外部評価） 入浴は、重介護を要する利用者が増加したため、午前は車いすの方、午後はそれ以外の方と時間帯で分けて支援している。一人ひとり湯を入れ替え入浴剤を工夫するなど、楽しめるよう心がけている。７月から９月にかけては毎日入浴できる。入浴が苦手な利用者には声かけを工夫したり清拭にするなど配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	（自己評価） 決められた時間で、利用者を縛ることなく、自分の好きな時間に休息し入眠できるような支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	（自己評価） 看護師が常勤しており、服薬支援、服薬指導、症状の変化の把握を行っている。与薬変更他、内服方法や服薬に対して注意点がある場合には、看護師より介護職員に対して説明が行われている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	（自己評価） 利用者のできることを見極めて、それぞれに役割を持っていただき、買い物、お花のお世話、テーブル拭き、等を手伝っていただく。又、嗜好品や個人の楽しみ事は個人に合わせて行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	（自己評価） 毎日散歩を行っている、お出かけ希望の時には、車で外出したり、遠いところにはご家族の協力も得て外出支援を行っている。 （外部評価） 毎日、職員と一緒に近隣の公園や神社へ散歩に出かけ、住民とあいさつを交わしている。糸山公園や市民の森、産直市場など、全員で戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	（自己評価） 管理能力のある方は本人が管理している。金銭管理が難しいかたでも本人家族の強い希望があれば、小遣い程度のお金を所持していただき、買い物を楽しんでいただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	（自己評価） 希望時にご家族に電話をかけることができるように、支援している。携帯電話をお持ちの場合にはその援助も行っている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	（自己評価） 居室も共用スペースも、利用者さんが不快な思いをしないよう、居心地の良いように配慮している。 （外部評価） 共用空間は全体が清潔で適温に保たれている。居間にある台所はガラス張りになっており、利用者は調理する様子を見たり、音や匂いも楽しむことができる。季節感のある手作りの作品や花を飾って、居心地よく過ごせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	（自己評価） 居室以外に、一人になりたいときに利用できる畳の間を用意している。畳の間が嫌なときには、ご家族と相談の時に使用する相談室も利用できる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	（自己評価） 居室は利用者の好みに応じた飾り物、使い慣れた家具、人形などを持ち込み、本人が自宅と変わらない生活ができるように支援している。 （外部評価） 居室にはテレビやテーブル、ソファなど使い慣れた物を持ち込むことができ、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	（自己評価） 一人ひとりが安全に暮らせるように、わかりやすく使いやすいように、エレベーターのボタン等をユニバーサルデザインにしている。また、トイレの洗浄ボタンも大きな物を使用し、手洗いの水道は自動止にしている。	